

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300375		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホーム サンシャインあいおい		
所在地	群馬県桐生市相生町4丁目33-4		
自己評価作成日	R5.10.26	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 毎日散歩をし、季節の変化、ご近所様との繋がりを大事にしている。また、体内リズムを整える事で、夜間良眠出来る様になっている。 個々の出来る事、得意な事(庭の花への水やりや、テーブル拭き、洗濯物たたみ等)で役割を持って頂き、やりがいを感じて頂いている。 毎日体操等を行い、筋力低下を予防している。 週に一度、利用者様と職員で協力しながら季節の物を取り入れた手作り昼食を行っている。 午前、午後とレクリエーションを行い、一日活動的に体や頭を動かしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は、地名である「あいおい」の頭文字から始まるものが作られ、管理者は、利用者が突然不穏に陥った時や職員のケアに疑問を感じた時には、職員に理念の振り返りを促し、職員の自主性や考えを尊重しながら話し合いを行い、対応につなげている。事業所は、地域の中にあると考え、近隣住民へのあいさつや、地域行事に参加するなどの地域交流を開設時から継続している。具体的な交流としては、地域の廃品回収事業に協力したり、夏祭りでは事業所駐車場を神輿の休憩所として利用していただき、子供たちに氷水などを提供したりして、利用者もお祭り気分が味わえる機会を作っている。その他、事業所の併設カフェを地域に開放したり、災害時には、地域住民の避難所としての活用する計画がある。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を考え、常に見える所に掲示している。何かあった時は、話し合い、実践している。	事業所の理念は立ち上げ時の職員で考え、地名である「あいおい」の頭文字を使って作成している。職員で共有できるように事業所内の数ヶ所に掲示し、ケアの気になる場面で管理者が噛み砕いて振り返りにつなげ、対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課になっている散歩時に、近所の方と話しをしたり、畑で採れた野菜を頂くなど、良好な関係を築けている。 また、コロナ以前は地域の人を招いて夏祭り等を開催していた。	日常的な散歩でのあいさつや会話を通して、近隣住民との関係を深めてきた。自治会長や民生委員と情報交換を行い、地域の廃品回収事業や夏祭りに参加をしている。事業所のカフェは、災害時、地域の避難場所としての活用を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナで休んでいたが、認知症カフェを実施し、施設内の様子も理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、敷地内の施設と合同で会議を行い、報告や意見交換等を行っている。	コロナ禍は開催できなかったが、令和5年6月より再開している。休会中でも事業所内の情報や利用者の状況を、家族へ送付してきた。年間計画を立て、開催1週間前には、再度管理者が出欠確認や内容を伝えて、会議開催の充実を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して頂き、ひやりはつとや事故報告等を行い、意見を頂いている。	市は、施設の運営推進会議に毎回出席し、ヒヤリハットや事故報告を行い、助言をもらうなどの関係を作っている。利用者の入居相談については、法人を通して受けている。この他、研修の案内は、ファクシミリで受け、参加につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体・言葉共に拘束はしていない。 必要かと思われる時も、常に代替ケアを考えるよう、スタッフミーティングで話し合っている。 定期的に会議を行い、勉強会も年に2回実施している。	基本的に拘束をしないケアに努めているが、家族と相談して、退院直後に期限を設けてベッド柵を4本使用した例がある。年2回は法人内で身体拘束廃止に向けた研修会があり、参加した職員が、会議で説明して、職員間での情報共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士も注意し、利用者様に態度や言葉での虐待がないようにしている。入浴時に怪我やアザ等が無いかな観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者様にどの制度が必要なのかを考え、ケアマネや管理者に相談しながら支援出来るようにしている。 現在、利用されている入所者様が1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用時に変更や改定等があれば書面等で知らせると共に、不安な事があればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、ご意見があった場合はすみやかに対応するようにしている。	玄関に意見箱の設置はあるが意見が出ないため、管理者は、紙パットの使用に伴う費用軽減を図る相談をするなど、利用者家族の意見を聴取する働きかけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回のスタッフミーティングの中で、意見や提案を話し合っている。	月2日の希望休暇を聞き入れるなど、有給休暇やリフレッシュ休暇を取りやすい配慮をしている。職員会議で、利用者の過剰なトイレットペーパー使用についての検討が行われ、必要量が使いやすい設置するなど、運営に反映させた取り組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年チャレンジシートやストレスチェックを行っている。チャレンジシートには、目標や達成度を記入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1度、研修があり、参加出来るようになってきている。不参加の場合も、資料で理解出来るようになってきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の研修やイベント等で、他施設スタッフとも交流する機会があり、お互いの意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を日々の生活の中で耳を傾け、信頼関係が築けるようコミュニケーションを取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族・ご本人がお互いの前で言いづらい事も、聞き逃す事のないように配慮しながら対応している。また、面会時や電話での状況報告の際に、分かりやすく説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に必要としているサービスを聞き、必要に応じて他のサービスも提供出来るようケアマネ・職員で支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る能力を活用し、日々の食事の片付けや洗濯物干し、洗濯物たたみなどを行って頂き、必ず感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話でご本人様の様子を伝えたり、ご家族様からの要望もスタッフで共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っていた美容室を利用出来るよう支援している。 コロナの為面会が減っているが、面会に来た方々には、玄関や交流室で行って頂いている。	馴染みの美容院を利用する支援をしたり、髪染めの希望者には、浴室で対応できるよう訪問美容師の受け入れをしたりしている。また、友人や家族との面会は、感染予防を考慮して別室を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、手作り昼食、作品作り等、利用者様同士が協力して楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した後も、これまでの関係を大切にし、相談等があった場合は適切に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で、ご本人様が求めている事柄について、申し送りノートを活用してスタッフ間で共有し、援助している。	日頃の会話や表情、特に、思いや意向を発信できない、積極的に発信しない利用者には、1対1での入浴対応時などから把握している。把握できた情報は、職員が必ず申し送りノートに記載し、会議でも情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から、以前の話を伺い、これまでの暮らしぶりを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや日々のケア日誌等で利用者様の状態を把握し、変化があった場合はカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様に適したケアプランを作成している。また、それらをスタッフ全員で共有出来ている。	ケアマネジャーがケアプランを作成し、職員が記載するケア記録は、短期目標とサービス内容を関連して記載できるように、目標がすぐに見られるようになっている。3ヶ月に1度のモニタリングは、ケアマネジャーと職員で一緒に行っている。	チームケアを実践するためにも、書式を活用し、日々の記録の仕方についての再考を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアを行い、記録している。変化があった場合には、申し送りノートに記入し、カンファレンスを行い、スタッフが共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況の変化に柔軟に対応し、必要なサービスを提供出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の得意な事を、日々の生活の中で発見し、ご本人様が生き生きと生活出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様のこれまでのかかりつけ医を大切に、かかりつけ医に往診をお願いしたり受診介助をしている。	かかりつけ医の訪問診療は月1回行われ、職員が医師へ日頃の様子を伝えている。通院の場合は家族対応を依頼しているが、困難な場合は職員が付添いをしている。また、法人の訪問看護ステーションと契約をして、週に1度訪問看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護が来設し、利用者様の状況や気づきを伝えて対応・支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人様、ご家族様との連絡を行い、状況の把握に努めている。病院関係者とも関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向をスタッフで共有し、希望に沿った支援を行っている。	入居時に、重度化した際の方針を説明している。家族の多くは入院を希望される場合が多く、看取りについての対応事例はない。今後、利用者や家族の希望に沿った支援を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会や勉強会を定期的に行い、スタッフが参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害防災訓練を年に2回行っている。	年2回の火災と自然災害の避難訓練を、実施している。消防署が立ち会う訓練の他に、自衛訓練も実施して、訓練実施は近隣住民や運営推進会議で周知している。駐車場と事業所のカフェは、地域の避難場所としても提供することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	利用者様のこれまでの生活を尊敬し、一人一人の誇りを大切に言葉掛けやケアを行っている。	対人関係等の理解が難しい利用者には、今までの生活歴を尊重して、声掛けを工夫しながら根気よく対応するようにしている。また、トイレ誘導や居室への出入り時は、プライバシーを損なわないような声掛けや配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の小さな事でも、決定はご本人様に確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムに合わせて、スタッフが声掛けを行い、その方のペースに合わせて、散歩やレクリエーション等を支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きな服装や髪形に出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に会話を楽しみながら食事を行っている。週1回、手作り昼食を行い、調理・盛り付け・片付けを一緒に行っている。	主食は事業所で準備し、副食は関連業者から届くものを提供している。週1度の昼食は、利用者のリクエスト献立を採用し、買い物から調理、片付けも一緒に行っている。食事中は、利用者が好きな音楽を流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の希望に合わせて、食事の量や代替えを調整している。見えづらい方には、食器の中に色が付いた器で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科の指導を受けている。 毎食後、一人一人に対し仕上げ磨きの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前や、時間でさりげなくトイレ誘導を行う等、個々の排泄パターンに合わせて、トイレで排泄を行えるよう支援している。	おむつを使用している人も、できるだけトイレで排泄することを目指してトイレ誘導を行い、排便・排尿を習慣化できるようにしている。あわせて、自然な排便を促すため、水分摂取量や運動を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等で体を動かし、水分をこまめに摂って頂く事で、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴のペースに合わせ支援を行っている。 拒否がある場合には、日時や職員を変えて対応している。	週2回を基本に、体調や必要に応じた臨機応変な入浴を実施している。誘導の声掛けの仕方や一対一での対応をして、ゆっくり寛げるよう留意して入浴につなげている。冬季は、ゆずを浴槽に入れて、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前からご本人様が使用していた枕や毛布等を持って来て頂き、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬情を保管している。 職員はいつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活全般をスタッフと一緒に、花の世話や掃除、おやつ作りやドライブ等で楽しみや気分転換を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩を行っている。桜やひまわり等、季節のお花見へ外出するようにしている。	日常的に、少人数で交替でのドライブや買い物に出かけている。また、中庭に自由に出入れる環境を作り、車椅子やシルバーカーを利用して、屋外の空気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者様もいる。欲しい物がある時はスタッフが伺い、代わりに購入している。 (コロナ以前は、一緒に買い物に出掛けていた)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	契約時にご家族に確認して、いつでも電話や手紙等、ご本人様が希望した場合はやり取り出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が快適に過ごせるように心掛けている。 玄関には利用者様と一緒に作成した作品を飾っている。	共用空間は、暖かみのある照明器具を使い、適温管理に努めている。楕円形の3人掛け食卓を用いて、利用者の相性やトイレ利用回数に考慮して、座席を決めている。窓越しの中庭には、オリーブやローズマリーが植えられ、自然を感じる環境を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時は利用者様同士好きな席に座り、お話ししたり、レクリエーションを行う事が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持参して頂いたり、居室内もご本人の意向に合わせ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	ベッドとタンスの備品以外は、仏壇や今まで使い慣れたテレビなどを持参している。担当職員が居室清掃や整理整頓を利用者と一緒に行い、衣替えの季節には家族に連絡して衣類の整理などの協力を得て、過ごしやすい環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアを中心に、キッチン、中庭、トイレ、居室の造りを活かし、個々の安全を確認しながら、自立した生活が送れるように支援している。		